

ジオパークを活用した火山防災知識の普及・啓発 - 気象庁伊豆大島火山防災連絡事務所の取り組み -

Spread and education about volcanic disaster mitigation knowledge through Geopark activities in Izu-Oshima Volcano

加治屋 秋実^{1*}, 長尾 潤¹, 山里 平², 舟崎 淳², 上野 忠良², 高木 康伸², 岡垣 晶子²

KAZIYA, Akimi^{1*}, Jun NAGAO¹, Hitoshi YAMASATO², Jun Funasaki², Tadayoshi UENO², Yasunobu TAKAGI², Akiko OKAGAKI²

¹ 気象庁地震火山部火山課伊豆大島火山防災連絡事務所, ² 気象庁地震火山部火山課

¹Izu-Oshima Resident Office for Volcanic Disaster Mitigation, Japan Meteorological Agency, ²Volcanological Division, Seismological and Volcanological Department, Japan Meteorological Agency

2011年には、霧島新燃岳噴火・東北地方太平洋沖地震津波・台風第12号など歴史に残る災害が発生した。これらの災害の教訓として、防災教育の重要性が再認識された。しかし、数100年に1回しか起こらないような現象に対しては、現実味に乏しいこともあり、避難行動に直ちに繋がらないなどの問題点が指摘されている。また、気象庁（全国の地方気象台など）による防災広報活動は、講演会・出前講座・見学会など気象台職員が直接に住民に周知する方法が主流であるが、その頻度や集客力には限界がある。さらに、火山など観光地においては、風評被害を懸念する観光事業者の理解を得ることも重要である。

このような課題を解消するひとつの手法として、ジオパークを活用した火山防災知識の普及・啓発が有効である。ジオパークとは、地球活動によって形成された岩石・地層・地形・火山などの地質遺産を保護しながら、科学・防災教育に活用し、観光の活性化を図る大地の公園である。伊豆大島ジオパークでは、行政機関・民間団体が官民協力して、科学・火山防災教育を重視したガイド付き観光ツアー・小中学生校外学習会・火山フォーラム・ネイチャーガイド養成講座など様々な取り組みを行なっている。火山活動の痕跡を実際に見て、生きている地球活動を体感して、楽しみながら科学・火山防災を学ぶことが可能なのである。また、単に知識としての科学・火山防災ではなく、異常を察知する能力、危険から回避する行動力、究極的には災害から生き抜く知恵を身に付けていけるように工夫している。

ジオパークでは、科学・防災を伝える主役はガイドであり、ガイドを通じて幅広い年齢層の観光客や小中学生などに防災が効果的に浸透していく。気象庁職員や研究者などの専門家は、そのようなガイドの養成を行う。そして、観光団体と協力して観光客の安全を確保する仕組みもできるため、観光事業者の理解を得やすい。

伊豆大島火山防災連絡事務所は、2008年4月に大島町役場内に設置され、火山防災業務を大島町と連携して行っている。火山を担当する全国各地の気象台と同様に、火山災害の防止・軽減のために住民や観光客に対する防災知識の普及が重要な業務のひとつとなっている。

ここでは、伊豆大島におけるジオパークを活用した火山防災知識の普及・啓発の取り組みについて報告する。

キーワード: ジオパーク, 火山防災

Keywords: geopark, volcanic disaster mitigation